

11月27日-12月3日

ヨブ 20-21章

38番の歌と祈り 田中 克彦

開会の言葉 (1分) 滝 秀貞

神の言葉の宝

「正しい人が裕福であるとは限らない」 (10分) 田中慶一

宝石を探し出す (10分) 阿部 直生

ヨブ 20:2 私は気持ちがかき乱され、話さずにはいられない。動搖しているのだ。

長老たちは、「気持ちがかき乱され」ている人をどのように助けられるか。

(塔 95 1/1 9 ページ 19 節) 19 興味深いことに、神の僕ヨブは、サタンがエリパズやツオファルによって伝えた「不安な考え」と闘わなければなりませんでした。 (ヨブ 4:13-18; 20:2, 3) そのため、ヨブは「悩み」を抱き、思いをさいなむ「恐怖」についての「乱暴な話」をする結果になりました。 (ヨブ 6:2-4; 30:15, 16) エリフは黙ってヨブの言うことに耳を傾け、すべてをご存じのエホバの種々の物事に対する見方をヨブが理解するよう誠実な態度で助けました。同様に今日、理解のある長老たちは、苦しんでいる人の受けている「圧力」を増し加えたりしないようにして、そのような人を気遣っていることを示します。かえってエリフのように、辛抱強く耳を傾け、それから神の言葉という痛みを和らげる油を塗るようにします。 (ヨブ 33:1-3, 7。ヤコブ 5:13-15) そのようにすれば、現実のものにせよ空想上のものにせよ何らかの痛手のために感情を乱されている人、あるいはヨブがそうであったように『夢で、また幻を見ておびえている』人は、痛みを和らげる聖書的な慰めを会衆内で得ることができるでしょう。 —ヨブ 7:14。ヤコブ 4:7。

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。 (20:17) エホバの祝福による豊かさを見れなくなる、 (21:24) 骨髄が潤っている若い時の健康を失うことなどの表現により、悪人や不完全な人間の結末が描写されている。こうした苦しみの表現からも、新しい時代のエホバの祝福を私たちがどれほど必要としているかや、その祝福に与かって欲しいというエホバの願いも感じて、慰めを得ることができた。

聖書朗読 (4分) ヨブ 20:1-22 (教励 第5課) 河野 正和

野外奉仕に励む

最初の話し合い (2分) 話し合いのサンプルの話題に沿って話す (1課) 田中弘子 1 宮崎倫子

再訪問（5分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。「いつまでも幸せに暮らせます」の冊子を提供し、聖書レッスンを実際に行ってみる。（教励 第6課） 大坂 典子 6 有田 優子

話（5分）日 09/5 12-13 主題: 人が金持ちになることは神のご意志ですか（17課） 有川 聖七

クリスチャンとして生活する

136番の歌

「今あるもので満足しましょう」（15分）討議。動画を視聴する。 星 延宏

会衆の聖書研究（30分）徹2章16-23節 竹林 直毅 朗読: 米山 英行

閉会の言葉（3分） 滝 秀貞

103番の歌と祈り 大谷 正

（ヨブ 20:1-21:34）ナアマ人ツオファルはそれを聞いて言った。 2 「私は気持ちがかき乱され、話さずにはいられない。動搖しているのだ。 3 私を侮辱して戒める声を聞いた。私の理解力が私を駆り立てて答えさせる。 4 あなたはまさか知らないのか。人*が地上に置かれて以来、 5 悪人が喜ぶ声は長く続かないもの。神を認めない人*が喜ぶのはつかの間だ。 6 たとえ彼の偉しさが天に達し、彼の頭が雲に届いても、 7 彼は自分の排せつ物のように永久に滅びる。彼を知る人たちは、『どこに行ったのだろう』と言う。 8 夢だったかのように彼は飛び去り、見つからない。夜の夢のように忘れ去られる。 9 彼を見たことのある人が、再び彼を見ることはない。彼は、住んでいた場所で見掛けられなくなる。 10 彼の子供たちは、貧しい人に恵みを乞い、彼の手は、自分の資産を返すことになる。 11 彼の骨は、若い力で満ちていた。しかしそれ*は彼と共にただの土ぼこりの中に埋もれることになる。 12 たとえ悪いことが彼の口にとって甘く、彼がそれを舌の裏に隠しても、 13 たとえそれを吐き出さずに味わい、口に入れたままにしておいても、 14 その食べ物は彼の中で酸っぱいものになり、体内でコブラの毒*のようになる。 15 彼は富をのみ込んだが、吐き出すことになる。神が彼の腹を空にする。 16 彼はコブラの毒を吸い、毒蛇の牙*に殺される。 17 蜜とバターが豊かな水のように流れるのも決して見ない。 18 得た財産を使い切ることなく返すことになる。商売でもうけた富で楽しむことはない。 19 彼は、貧しい人を打ちのめして見捨てた。自分が建てたのではない家を自分のものにした。 20 彼は平和な気持ちを抱けなくなる。生き残るために彼の豊かさは役に立たない。 21 彼が奪う物は何も残っていない。それで彼の幸福は続かない。 22 彼は最も豊かな時に、不安な気持ちに襲われる。不幸が全力を挙げて彼を襲う。 23 彼が腹を満たしていると、神は燃える怒りを雨のように彼に降らせる。 24 彼が鉄の武器から逃げ去る時、銅の弓矢が彼を刺し通す。 25 彼は矢を背中から、きらめく武器を胆のうから引き抜く。彼は恐怖に包まれる。 26 完全な闇が彼の宝を待ち受ける。誰があおり立てたのでもない火が彼を焼き尽くす。彼の天幕で生き残る人は皆、災難に遭う。 27 天は彼の過ちを明らかに

神の言葉の宝

正しい人が裕福であるとは限らない

ツオファルは、神は悪人から富を取り去ると主張し、ヨブが罪を犯したとほのめかした。（ヨブ20:5 悪人が喜ぶ声は長く続かないもの。神を認めない人(*背教者)が喜ぶのはつかの間だ、10 彼の子供たちは、貧しい人に恵みを乞い、彼の手は、自分の資産を返すことになる、15 彼は富をのみ込んだが、吐き出すことになる。神が彼の腹を空にする）

ヨブは、そうであれば悪人が成功しているのはどうしてかと反論した。（ヨブ21:7-9 どうして悪人が生き続け、年を重ね、裕福に(*力強く)なるのか。8 彼らの子供たちは彼らといつも一緒にいる。彼らは子孫を目にする。9 彼らの家は安全で、不安がない。神が棒を用いて彼らを処罰することはない）

正しい人が裕福であるとは限らない。イエスも裕福ではなかった。（ルカ9:58 しかしイエスは言った。「キツネには穴があり、鳥には巣がありますが、人の子には自分の家(d*頭を横たえる所)がありません」）



じっくり考えてみよう お金があるかないかにかかわらず、正しい人は何を一番大切にするだろうか。（ルカ12:21 自分のために宝を蓄えても、神から見て裕福でない人はこうなるのです。）

（塔07 8/1 29 ページ12節）イエスの話の中で、神に対して富んでいることは、自分のために宝をためること、つまり物質的に豊かになることと対比されています。ですからイエスは、物質の富を蓄積すること、あるいは所有物を喜びとすることを生活の主要な関心事にしてはならない、と言っておられたのです。自分の資産は、エホバとの関係をより良く、より強いものにするために用いる必要があります。そうするなら確かに、神に対して富んだ者となることができます。なぜでしょうか。神からの多くの祝福を得る機会が開かれるからです。聖書はこう述べています。

「エホバの祝福、それが人を富ませるのであり、神はそれに痛みを加えられない」。

—箴言10:22 エホバの祝福が人を富ませる。それに痛み(*悲しみ/苦しみ)は伴わない。

クリスチャンとして生活する

「今あるもので満足しましょう」

経済的に苦しい時に、収入の良い仕事が見つかったとします。でも、その仕事に就くならエホバに仕える時間が減ってしまいます。どうしたらいいでしょうか。[ヘブライ 13章 5節](#)お金を愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」についてじっくり考えることが役立ちます。

「お金を愛するような生き方をせず」

お金をどう見ているかについて、祈って考える。自分は子供にとって良い手本になっているだろうか。[（目 15/9 6）](#)

「今あるもので満足しましょう」

本当に必要なものとは何かについて考える。[（塔研 16.07 7 ページ 1-2 節）](#)

「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」

王国をいつも第一にするなら生活に必要なものをエホバが与えてくださる、ということを信頼する。[（塔 14 4/15 21 ページ 17 節）](#)



[「平和な心を持ち続けている兄弟姉妹: 失業」](#)の動画を見て、次の質間に答えましょう。ミゲル・ノボア兄弟の経験談から何が学べますか。

- ①大変な時に長老/信頼できる仲間に話を聞いてもらうと、適切なアドバイス/アイデア貰えるかも
- ②職種や生活スタイルに拘らず、身近なできる仕事を始められる
- ③エホバへの奉仕に目の焦点が合っていれば、家族を養えるというエホバの約束を信頼できる
- ④経済的な試練を通して強くなれて、エホバとの絆も強めることができる

(2017年ニカラグアの大手の銀行で財務管理の仕事をしていた。息子が生まれて一歳になり、とても幸せに暮らしていた。でもその後失業してしまった。その時こう思った。自分には経験があるし、エホバは似たような別の仕事を見つけられるようしてくれるだろう。でもずっと仕事を探していたが、見つからなかった。とてもストレスを感じた。家族を養うこともできないのか、と思うと、本当に情けなくなつた。とても苦しく辛い時期だった。

格 17:17 「真の友はどんな時にも愛を示す。苦難の時に頼れる兄弟である。」とある。私の場合もそうだった。銀行の仕事が無くなつた時、本当に落ち込み、不安で気が張りつめていた。何でも話せる友だちが居て、気持ちを打ち明けたらこう言われた。「ねえミゲル、同じ職種に拘らない方がいいんじゃないかなー。もしかしたら生活スタイルを変えた方がいいのかもね。オフィスでの仕事だけじゃなくて、外でできるような仕事も探してみたら。エホバへの奉仕に目の焦点が合つていれば、家族を養えるようになると思うよ。」妻が家族のためにパンを作るのを見ていた。それである日言つた。「パンを作つてみようかな。家族のためではなく、それを売ろうと思う。」妻には「えー、本気なの?」と言われた。(カッコ内は妻:銀行で役職につき、多額のお金を扱つていた人が、路上でパンを売ることになるなんて、大きな変化。)この帽子被つてみようかな、と言って、コックさんみたいな帽子を被つた。パンを売りに行って1時間で全部売れたのを見て妻は驚いた。2回目に売りに行こうとした時、「行ってらっしゃい、でも帽子は取つてね。」と妻に言われちゃいました。アイロンを掛ける出張サービスも始めた。この辺りでは大抵女性がする仕事なので、珍しがられた。男性が他の家に行ってアイロン掛けをするなんて、あまり聞かない。家でただ腕組みをして何もしないでいるというのは嫌だった。(伝道 11:6 手を休めではならない。)とにかく手を動かして家族のために働かなくてはいけないと思った。1日奉仕に出たら、次の日はアイロン掛け、また次の日は奉仕に出て、その次の日はパンをうるという感じ。いつも忙しくして王国や家族のことを考えていたのが良かったと思う。今は仕事が見つかってホームセンターで働いている。心は平和。試練によって強くなれたし、結果的にエホバともっと親しくなれた。パンは今も作つてゐる。家のアイロン掛けは私の仕事)

^ (ヘブ 13:5) お金を愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言つています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」。